

イベント（講演）名	第7回 産・学・官連携フォーラム (平成18年度第6回IT交流プラザ)
主催	日本大学工学部工学研究所 (財)郡山地域テクノポリス推進機構 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会
開催又は実施年月日	平成18年7月14日(金)
開催又は実施場所	日本大学工学部 50周年記念館
参加人員	約120名

今年で7回目となるこのフォーラムは、第1部で、ものづくり大学名誉教授の上田惇生先生が、産学官連携の在り方についてアメリカの経済学者ドラッカーの経営思想の観点から講演し、第2部では今夏に開所予定の「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」が担う期待と課題について、産学官の代表がパネルディスカッションを行いました。

### 第1部 基調講演

「文明の担い手としての産学官連携—ドラッカー経営思想の真髓」  
ものづくり大学名誉教授 上田 惇生 氏

- ◇ 文明というものを考えれば、産学官の連携は当然のことであり、それが今本格的に始まるということである。
- ◇ ドラッカーが推奨する言葉、何をもって憶えられたいか。人は、日常の一つ一つの動きの中で、自分が成りうるもので今の自分よりいいものとして憶えられたいものである。そうすれば、あらゆる行動がよい方向に向いていくものである。目線がちょっと上を向くことによってすべてが変わるものである。
- ◇ 例えば、郡山のインキュベーションセンターは何によって、何をもって憶えられたいか、そういう意識を持って取り組んでいくことが大切である。すなわち、描くということが、すべてを変えていくものである。



### 第2部 パネルディスカッション

「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターへの期待と課題」

【コーディネーター】 藤原雅美 氏 (日本大学工学部工学研究所次長)

【パネリスト】

- 藤島初男 氏 (福島県商工労働部地域経済領域産業創出グループ 参事)
- 鈴木茂清 氏 (郡山市商工労働部商工振興課長)
- 内藤清吾 氏 (株式会社内藤工業所 代表取締役社長)
- 小沢喜仁 氏 (福島大学副学長(研究担当)・附属図書館長)
- 金澤良弘 氏 (日本大学産学官学連携知財センター 副センター長)
- 熊田正治 氏 (財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 常務理事)
- 清水誠二 氏 (日本大学工学部 機械工学科教授)

- ◇ 近年、大学のものづくりの力は落ちており、日大の機械工学科では、今年度から学部2年生に対して工作実習を再開しているが、今夏、学内にインキュベーションセンターが開所され、そこに試作センターが備え付けられているため、それをうまく活用できることを期待している。

- ◇ インキュベーションセンターには、起業家とのパイプ役やテクノポリス圏域の独自の製造業などの創出による地域経済の活性化を期待している。
- ◇ 福島県ハイテクプラザとインキュベーションセンターの連携を図っていくことが大切である。
- ◇ 県内の15大学等で、福島県高等教育協議会というネットワークを形成しているが、そういったネットワークに産業界が積極的に関わり、連携を深めていく必要がある。
- ◇ 入居者がビジネスモデルとして確立していくことができるような支援など、インキュベーションマネージャーの果たす役割は非常に大きい。
- ◇ 複数の企業が組んでインキュベーションセンターを中心としたプロジェクトを進めていけるような体制が取れることを期待している。
- ◇ インキュベーションセンターを活用して、近くに顔の見える距離で、企業同士の連携を深めることが非常に重要である。



### 第3部 ポスターセッション

大学から15の研究テーマが公開され、盛会のうちに終了しました。